ICEES

チャート作成
イボガの進むべき道

イボガ・コミュニティ・エンゲージメント・イニシアチブ

結論と提言

2021 年3 月

によるプロジェクト。
国際民族植物教育研究サービスセンター(ICEERS)

プロジェクトリーダー
Ricard Faura, PhD
Andrea Langlois

ICEERS 科学、法律、技術アドバイザー
Benjamin De Loenen、José Carlos Bouso 博士、Genís Ona。

エディター
エリック・スウェンソン

フォトグラファー
リカード・ファウラ

グラフィックデザイン
Àlex Verdaguer

2021 年3 月
詳細やお問い合わせは、メールでお願いします。
iboga@iceers.org

www.iceers.org

Attribution
CC BY

チャート作成
イボガの進むべき道

イボガ・コミュニティ・エンゲージメント・イニシアチブ

結論と提言

目次

結論と提言のまとめ 5
はじめに 8
ブリーフコンテクストアフリカから世界へ 9
エンゲージメント・イニシアチブ 10
本レポートへの取り組み方 10
謝辞 11
A: コミュニティ、互恵関係、グローバルヒーリング 13
結論 13
おすすめポイント 15
B：生命文化の再生と持続可能性 21
結論 21
おすすめポイント 24
C:伝統的・新たなヒーリングアプローチの認識と進化 29
結論 29
おすすめポイント 32
巻末資料 35

結論のまとめ＆ 提言

結論と提言のまとめ

A: コミュニティ、互恵関係、グローバルヒーリング

結論

" 国際的なイボガとイボガインのコミュニティは、ネットワーキング、コミュニケーション、コラボレーションを強化することで、持続可能な取り組みを強化し、人類と惑星の癒しのためのより大きな機会を促進することができます。

"現在の世界のイボガ生態系はバランスを崩しており、イボガのルーツである中央アフリカとのつながりを取り戻す必要があります。

おすすめポイント

"国際的なネットワークを強化し、異文化・分野横断的なネットワーキング、コミュニケーション、コラボレーションの機会を創出する。

"国際的な治療クリニックとセレモニーファシリテーターの間で連携と連帯責任を育むボトムアップの自己規制プロセスを確立し、地域的・国際的に規制プロセスに情報を提供する。

"イボガやイボガインに関する新たなエビデンスの創出に取り組む研究グループ、大学、企業、非政府組織間の連携を促進する。

" イボガとイボガインを用いた実践に関連する人権を促進するために、共通のナラティブとアドボカシー活動を構築する。

" すべてのプロセスの中心に互恵性の原則を置き、植物とその起源、そして伝統的な管理者を尊重することを強調する。

B：生命文化の再生と持続可能性

結論

" 中央アフリカ、特にガボンでは、野生の*タベルナンテ・イボガ*が乱獲され、持続可能性に影響を及ぼしています。

"ガボンだけでなく、他のアフリカや熱帯の国々で持続的に*タベルナンテ・イボガ*を栽培することで、地域社会や生態系に利益をもたらすことができます。

" ガボン政府が短期的にイボガ栽培の規制と効果的な輸出をどのように進めるかは、長期的には国内外でのイボガの将来に影響を与えることになるでしょう。

" *イボガイン*の生産は、ガボンや中央アフリカの野生植物の個体数を減らすことが*できます。*

おすすめポイント

- *タベルナンテ・イボガ*の需要の高まりが、生物文化の持続可能性に与える影響について、国際社会が協力して認識を高めるよう促す。
- アグロフォレストリーや再生農業に取り組む農園を増やすため、アフリカやその他の熱帯地域のイボガ農園の現状を把握する具体的な取り組みに取り組むこと。
- 持続可能なイボガプランテーションの開発と生物文化保護を優先する、協力的で倫理的な資金提供プログラムを作成する。
- イボガインやその他のアルカロイド、化合物を抽出するための *Tabernanthe iboga*（Voacanga africana など）の代替資源を研究し、投資する。
- ガボンにおいて、イボガの持続的な栽培と輸出を支援し、コミュニティの利益を優先する規制の枠組みを引き続き提唱する。

C:伝統的・新たなヒーリングアプローチの認識と進化

結論

- 医薬品グレードのイボガインが臨床で使用できるようになれば、治療へのアクセスが改善される可能性がありますが、この機会には倫理的、アクセス性、持続性の問題があり、考慮する必要があります。
- 問題ある薬物使用に対するイボガやイボガインを用いた臨床療法は、その効果やホリスティックなケアモデルとして高く評価されていますが、ケアの基準は様々で、リスクの高い行為に対処する必要があります。
- ガボンでは、イボガは複雑な生物文化的伝統医療システムの一部であり、地域社会のヘルスケアを改善する機会を提供しています。この知識は、メンタルヘルスや依存症ケアシステムの改善に国際的に応用することができます。

おすすめポイント

- サービスの質と安全性を向上させるため、イボガとイボガイン療法を提供する国際的なクリニックにおける診療とケアの標準を開発し、実施する。
- 伝統的・補完的・代替的医療（TCAM）を地域や国際レベルで公式に認めることは、世界のメンタルヘルスや依存症ケアの改善に向けたアプリケーションの開発に寄与する。
- イボガとイボガインの治療可能性を完全に理解するためには、科学と伝統的な知識の知恵を橋渡しする研究が必要です。

はじめに

はじめに

私たちは大きな変化の時代を生きています。2020 年の春、パンデミックによって地域社会がどのように関わっていくかが大きく変化し、不平等や脆弱性が浮き彫りにされ、地球上のすべての人間のつながりが明らかになったのです。

これは、イボガのような植物の指導者が常に伝えているメッセージです。つまり、人間は互いに、そして自然界と相互依存しているということです。この教えの中には、依存症やうつ病などの病気や、生態系の危機は、より大きなアンバランスの症状であるという理解も含まれている。それは、私たちが自分が誰であるかを忘れ、*相互存在することを*忘れ、道を見失ったことの表れなのです。イボガ、そしてアヤワスカやペヨーテなどのマスタープラントやキノコは、私たちが家路につく際に手を握ってくれるという素晴らしい贈り物を与えてくれます。ガボンや中央アフリカのピグミー族やバンツー族などの伝統的な人々は、この道のガイドとなる教えや慣習を尊重し、発展させ、維持し、植物や慣習、教えを尊重する方法を新参者に教えてきました。

ICEERS がこのイニシアチブを開始することを決めたとき、私たちはコミュニティの要請に応えていました。イボガとイボガインに特化した国際的なコミュニティの多くの人々は、この神聖な植物と関係を持つ人々の多様性を表す糸を編み上げる必要があると感じていました。一歩引いて、より広い視野を持ち、多様な視点を織り交ぜて、進むべき道を示すべき時だったのです。イボガの実践がグローバル化するにつれ、学びと癒しの機会が多くなり、この植物が提供するものへの関心が大きく高まっています。私たちがガボンで話をした人々は、イボガが全人類への贈り物であることを思い出させてくれました。そして、すべての贈り物と同じように、与えられたものは、優雅に受け取り、貢がなければならないのです。

しかし、残念ながら、この神聖な相互作用のサイクルはバランスを失っています。生態系のレベルでは、植物である*タベルナンテ・イボガは*敬意をもって扱われていません。中央アフリカの野生では、イボガは過剰に収穫され、再植林されず、密猟され、闇市場で売られ、利益は地域社会に還元されていません。教えは共有されていますが、ブウィティとのつながりやアフリカでの起源が取り除かれていることが多いのです。国際的なレベルでは、イボガとイボガインは、依存症に悩む人々を助けるためにクリニックが提供するサービスの一部になっています。これらの治療法は多くの人を救ってきました。しかし、不正行為や利益優先のサービス、伝統の軽視、そして死者まで出ているのが現状です。

私たちは、集合的なビジョンは、コミュニティのリーダー、ビジョナリー、実践者、政策立案者が、未知の地形で航海し、正確な道がまだ照らされていなくても、未来に焦点を当て続けるための指針になり得ると信じています。イボガとイボガインのコミュニティ・エンゲージメント・イニシアチブの目的は、グローバル社会におけるイボガとイボガインの理想的な未来がどのようなものであるかについて、グローバルコミュニティと協力して意見とアイデアをクラウドソースすることでした。本イニシアティブは 2 つのフェーズで実施され（詳細は後述）、各フェーズ終了後に報告書を発行し、参加したコミュニティからのビジョン、イボガと イボガインの実践の現状や機会・課題に関する洞察を提供する知見を共有しました。これらの報告書では、結論や勧告を提示することはしませんでした。私たちは待ったをかけ、聞いたことを整理し、新鮮な目で調査結果に立ち返り、互恵性に基づく生物文化的持続可能性の観点から、イボガのポジティブな未来を創造するために、私たちが共に行動できる方法を提案し、統合した視点を提供します。

簡潔な文脈。アフリカから 世界へ

イボガは、コンゴ盆地の森林に生息する固有植物で、この地域の 7 つの先住民族によって何世代にもわたって尊重されてきた。中央アフリカのピグミー族は、イボガの癒しとスピリチュアルな特性を最初に認識し、イボガを贈り物として保護し、現在では他の人類と共有しています。口伝えによると、ピグミー族はイボガの知識をバンツー族と共有し、彼らはブウィティ族の精神的伝統に加わり、さらに発展させ、今日も健在である。

ヨーロッパで初めてイボガに言及したのは 1819 年の英文で、最初の植物標本がフランスに到着したのは 1864 年でした。20 世紀初頭の 1901 年には、最も強力なアルカロイドであるイボガインを抽出する方法が開発された。当初、イボガインはフランスで疲労やうつ病の治療薬として導入され、1962 年にアメリカでオピオイドなどの物質による依存症の治療に強力な効果があることが発見されたのです。この時、この文化財が世界中に広まり、次の物語が始まったのです。

イボガとイボガインによる儀式と治療は、オピオイドやその他の依存症に罹患している人々にとって、信じられないほど有用であることが示されている。この特性は、現在、他の植物や薬では、依存 症の人々を助けるのにこれほど効果的であることは知られていないため、ユニークなものです。欧米では、このような依存症や精神疾患の蔓延に対処するための解決策が求められており、多くの国でこの病気が多発している今、この用途は注目されている。しかし、残念ながら、1970 年にイボガインは規制薬物法の別表 I に指定され、国際的な使用は事実上不可能となり、地下に潜ることになった。しかし、それにもかかわらず、20 世紀末には世界的な認知度が高まり、イボガインとそのアルカロイドの需要も高まりました。

このような状況下、様々な課題が浮上しているが、その中でも特に注目すべきは 2 つである。一方、依存症治療クリニックが数カ国で開業し、法的・公的な臨床の 枠組みや規制の外でサービスを提供する、10 年以上前の医療サブカルチャーに加わっています。これらのクリニックは、伝統的な知識を基に、あるいは完全に革新的に、さまざまなプロトコルを設計し、世界中の何千人もの人々に救済を提供しています。しかし、これらのクリニックは規制されておらず、診療や専門家もおらず、この強力な薬を投与する人々を訓練する正式なプログラムもありません（中央アフリカの伝統的な診療における医療従事者のイニシエーション以外では、です）。このようなサービスを提供する熱心な人はたくさんいますが、助けを必要としている人たちは、癒しを求めて大きなリスクを負うことがよくあります。残念ながら、回避可能な死者が出ており、治療費が高額なため、多くの人が治療を受けられない状況にあります。

デトックスや依存症治療に対する需要の高まりに加え、最近では、別のタイプのコミュニティが好奇心を高めています。それは、様々な精神作用のある植物やキノコを、精神療法的な効果や精神的なつながりをもたらすという理由で、儀式の場で使用する世界各地に散在するコミュニティである。これらのコミュニティのいくつかは、イボガを精神的・霊的な儀式に導入しており、イボガの国際的な需要の高まりに拍車をかけています。

このように世界的にイボガとイボガインの需要が高まった結果、野生内の植物への圧力は驚くほど高まっています。中央アフリカ、特にガボンのブウィティの施術者たちは、常に森の中に採集に行き、持続可能な方法で収穫してきたため、イボガはこれまで栽培されたことがありません。合法的な輸出入の枠組みがないため、イボガ（象牙など他の製品も含む）を取引する犯罪企業によるブラックマーケットが形成されているのです。まだ危機的状況には至っていませんが、野生のイボガは限界に達しており、ピグミー族やバントゥー族のブウィティ精神やイボガへのアクセスにも影響を及ぼしている。

エンゲージメント イニシアチブ

上述のように、ICEERS は、イボガとイボガインの実践とグローバルサプライチェーン内でのこれらの物質の「市場」に起こっていることの様々な側面を概説するためのスコープを実施する必要性の高まりを受けて、このイニシアチブの実施に乗り出しました。2018 年、ICEERS はこのプロセスを開始し、国際社会やガボンの主要コミュニティとつながり、「イボガとイボガインの理想的な未来」がどのようなものかについての視点やアイデアを収穫するためのイニシアチブの 2 段階を設計した。このイニシアティブは、「多様な立場から、私たちは皆、写真の断片を持っている」という前提のもとに行われました。各フェーズで採用した方法論は以下の通りです。

- **第 1 期（2019 年）**。イボガ/イネをめぐる国際社会のヴィジョン
  この初期段階の目的は、「世界のイボガとイボガインのコミュニティに参加し、コミュニティの強みと資産を特定し、将来のビジョンを共有することで、ポジティブな変化を可能にするために協力すること」でした。そのために、アンケートやビデオ会議などのオンライン・エンゲージメント・ツールを使用し、質的方法論（詳細なインタビュー、フォーカスグループ、対話セッション）と量的方法論（4 言語によるグローバル調査）の要素を組み合わせて実施しました。インタビューは 12 カ国 55 名、アンケートは 34 カ国 228 名に実施しました。このフェーズは、運営委員会（メンバーリストは下記の謝辞を参照）の貴重な協力のもとで進められ、彼らは行動を共同設計し、進捗と結果を常に議論していた。
- **第 2 期（2020 年）**です。イボガの未来。中央アフリカからの視点
  第 2 フェーズの目的は、"アフリカの視点や声が、イボガやイボガインのグローバル化に影響を与え、視点を橋渡しし、現地やアフリカの関係者、世界のイボガやイボガインコミュニティの異文化間のつながりを強化する強力な機会を作ること "でした。これを達成するために、私たちはガボンへの数週間の現地視察を実施しました。この間、56 人の人々と深く交流し、12 のブウィティ・コミュニティを訪問し、異なる管理モデルを持つイボガ農園を知ることができたのです。この段階は、BOTF（Blessings Of The Forest）と Ebando の協力により実現しました。BOTF は私たちに同行し、貴重な人脈、背景、分析の共有などを提供してくれました。また、この段階では、著名な映像作家であるルーシー・ウォーカー氏とその専門家チームと協力し、ビデオ映像を撮影することができました（ウェブサイトではクリップをご覧いただけます）。

今回の レポートの取り組み方

フェーズ 1 およびフェーズ 2 の報告書には、結論と勧告は含まれていない。これは、各フェーズで独立した結果が得られたものの、最終的な結論は、すべての参加者の視点を集め、統合し、徹底的に検討した上で編み出される必要があると考えたためです。各フェーズで採用した方法論や詳細な調査結果、インフォーマントからの直接の引用にご興味がある方は、各フェーズの報告書をご覧ください。

結論と提言を 3 つのテーマ分野に分類しました。

- **コミュニティ、互恵性、そしてグローバルな癒し**
- **生命文化の再生と持続可能性**
- **伝統的なヒーリングアプローチと新しいヒーリングアプローチの認識と進化**

イボガとイボガインに関心を持つすべての人に、この報告書に参加してもらい、結論について議論し、あなたの経験や分析を持ち寄ってもらうことを勧めます。私たちは、この報告書が対話の出発点であると考え、このページに記載されているアイデアに関心を寄せてくれることを望んでいます。変化は人間関係によってもたらされます。

どんな困難も、地域の絆があれば乗り越えられる。私たちには多くの強みがあり、それを活かして、この 文化的宝物の未来を大切にしたいと願っています。

本報告書の「推奨事項」は、指示的なものではなく、あくまで「推奨」であることを意識しています。読者の皆様には、この地球規模の生態系の中でのご自身の役割を考えていただき、この報告書の情報が、ご自身の行動の影響を理解するために必要な情報となることを願っています。私たちの願いは、多様な利害関係者のコミュニティが、持続可能性と互恵性の基盤の上に立って協力し始めることができるようになることです。私たちが共有するビジョンは、コミュニティが一丸となり、より良い未来を創造するために、生態系に基づくアプローチ、つまり複数の要素間の相互作用を認識するアプローチをとることを約束することです。生態系に基づくアプローチとは、植物そのものから始まり、その未来と、自然の中で成長し続けるために必要なすべてのもの、そして何世代にもわたって儀式や知識、儀式を守り、管理してきた伝統的な人々や文化について考えることです。また、スピリチュアルな成長と中毒からの癒しを求め、つながりを感じたいと願う地球上の人々のニーズも考慮したアプローチでもあります。

謝辞

この活動は、時間、エネルギー、ビジョンを共有してくださった多くの方々の惜しみない貢献なくして実現できなかったものであり、心から感謝しています。

Phase1 への貢献に対して、運営委員会のメンバーに謝意を表するとともに、感謝の意を表したい。Benjamin De Loenen、Doug Greene（故人）、Tom Kings- ley Brown、Patrick Kroupa、Jeremy Weate、Hattie Wells、Sarita Wilkins。また、Kenneth Alper、José Carlos Bouso、David Emer、Christine Fitzsimmons、Yann Guignon、Uwe Maas、Dennis McKenna、Tanea Paterson、Genís Ona、Natalia Rebollo、Con-stanza Sánchez、Süster Strubelt、Eric Swenson、Clare Wilkins、Àlex Verdaguer、Holly Weese（以上 故人）に感謝したい。

フェーズ 2 への貢献に対して、私たちは文化的なアドバイザーを認め、感謝したいと思います。Yann Guignon、Uwe Maas、Hugues Obiang Poitevin、Süster Strubelt、Lila Vega です。また、José Carlos Bouso, Julian Cautherley, Benjamin De Loenen, Ba- bas Denis, Igor Domsac, David Emer, Sam Kahn, Georges Kamgoua, Genís Ona, Eric Swen- son, Àlex Verdaguer, Lucy Walker, and Sarita Wilkins に感謝したい。

また、Dr.Bronner's と RiverStyx Foundation の財政支援に感謝いたします。

これらの協力者に加えて、このプロジェクトの枠組みの中で私たちと経験、アイデア、夢を共有してくれたガボンや世界中の何百人もの人々や何十ものコミュニティに心から感謝します。また、イボガとイボガインのコミュニティの寛大さに感謝し、この作品が、彼らが共有してくれた時間と知識を正当に評価するものであることを願っています。

オン・エスト・アンサンブル

リカール・ファウラ、アンドレア・ラングロワ

A: コミュニティ、互恵関係、そして グローバル・ヒーリング

A: コミュニティ、互恵関係、グローバルヒーリング

結論

1. 国際的なイボガとイボガインのコミュニティは、持続可能な努力を高め、人類と惑星の癒しのためのより大きな機会を育むために、ネットワーク、コミュニケーション、コラボレーションを強化することで利益を得ることができます。

見えないところではありますが、イボガとイボガインに関わるすべての人々を結ぶ国際的なネットワークが存在します。このネットワーク内のハブは、貿易、サプライチェーン、関係、政策、慣行を通じて互いにつながっています。このネットワークは、個人、グループや組織、植物、生態系、精神的、分子的なアクターで構成されています。

人間の行為者は、イボガやイボガインに何らかの形で関係している人々、グループ、コミュニティです。分かりやすくするために、彼らはいくつかのカテゴリーに分類することができますが、それぞれのグループには大きな多様性があることを常に念頭に置いています。

"ガボンをはじめとするアフガニスタン中央部のブウィティ・コミュニティとイボガを使用するすべての人たち

" **国際的なサイコ・スピリチュアル・コミュニティ**[1]

"**イボガおよびイボガイン・メディカル・サブカルチャー。**イボガとイボガインの医療サブカルチャーに関わる個人、組織、起業家、投資家（医療従事者、患者、様々な経歴の治療補助者、統合サービスプロバイダー、クリニックオーナー、投資家）は、一般的にその活動が完全に規制されていない法的環境で活動している。

"**許可された医療従事者。**医療用医薬品として、あるいは「コンパッショネイトユース」、エクステンデッドアクセス（ニュージーランド、南アフリカ、ブラジルで現在行われている）により、イボガの医療使用が許可されている状況で働く医師やその他の医療専門家たち。

" **サプライチェーンアクター**（収穫者、栽培者、流通業者、生産者、投資家）

"**意思決定者、政策立案者、非営利団体**（地方、地域、州レベル、国際機関）

" **研究者**（大学、製薬会社、NPO など）。

人間以外のアクターとは、自然界の一部である植物的、生態系的、精神的、分子的なアクターを指します。これらには以下のものが含まれます。

"**イボタノキ**

"**イボガイン**およびその他のアルカロイドは、*Tabernanthe iboga* から抽出、*Voacanga africana* から半合成、または実験室で完全に合成することができる。

" ガボンと中央アフリカの森林と生物文化・社会生態系

これらのアクターをマッピングし、フォーマル、インフォーマルを問わず、これらのネットワークを可視化し、連携させることは、システムレベルの変化を生み出す鍵を握っている。持続的で公平な社会変化を生み出し、レジリエンスと社会正義を活性化するためには、ネットワークの強固な結びつきと流れが基本になることがある。このような利害関係者やアクターを結びつけ、地域や国際的な規制、政策、実践の場に共同で参加し、全体に影響を与える決定に情報を提供することは、大きなチャンスである。

ネットワークは、物語的な変化や、資源の流れへの公平なアクセスと抑止を生み出すために活用することができ、以下のような方法で自己組織化とエンパワーメントを支援することができる。

社会正義、（ネットワークと生態系の）持続可能性、繁栄のために、より分散した意思決定を行う。

2. 現在の世界のイボガ生態系はバランスを崩しており、イボガのルーツである中央アフリカとのつながりを取り戻す必要があります。

前述したように、イボガの標本がアフリカを出発した最初の記録は 1864 年です。これは、長いグローバル化のプロセスの始まりであり、イボガがそのルーツから切り離された始まりでもあった。

1901 年、イボガインの抽出方法が開発された。1939 年からは、フランスでランバレーヌ（ガボンの都市名）の名で、疲労やうつ病の治療薬として錠剤で販売されるようになった。研究者の間でも関心が高まり、1950 年代以降、特に心理療法の補助としてのイボガに着目して研究が行われた。1962 年、イボガインの服用によりヘロインの使用を中止したハワード・ロトソフによって、オピオイドなどの 物質による依存症の治療に強力な効果があることが 発見されました。活動家たちは、その後何年にもわたって、依存症に悩む人々、多くの点で疎外され、医療制度から無視されている人々のために、イボガへのアクセスを提唱するために時間と労力を捧げました。このアドボカシーは今日まで続いています。

その後、1960 年代後半になると、政策変更により研究や治療への応用の扉が閉ざされはじめました。アメリカでは、1967 年にイボガインの販売・流通が規制され、1970 年には規制物質法のスケジュール I に指定されました。フランスでは、イボガインに関連した死亡例が報告された後、2007 年にイボガインが決定的に禁止された。これらの政策は、グローバル化のプロセスを遅らせるとともに、イボガインを「麻薬」として分類し、違法とすることで、この文化的宝物に汚名を着せることになった。

イボガがアフリカから持ち出されたのは、タバコ、カカオ、コカなど、多くの植物が経験した植民地主義の遺産を示すものである。植物が世界を旅するのは、人類が新しい土地に移住するようになってからであり、この人類存在の事実には、何ら否定的な要素はない。しかし、植物がある場所から持ち出され、別の場所で経済システムに組み込まれ、元の民族が製品や知識に対して支払った金額を大きく上回る利益を企業や個人にもたらす場合、不均衡が生じます。

2021 年の今日、イボガをはじめとする植物や菌類の医薬品が、医療関係者や研究者だけでなく、産業界やベンチャーキャピタルからも注目されている時代になった。イボガやイボガインは、文化的な宝物ではなく、収益源となる可能性があると考えられており、これは重要な結果をもたらすものです。フェーズ 1、フェーズ 2 のリポート、そして今回の報告書にあるように、イボガとイボガインに対する世界的な関心の高まりがもたらす結果は重大です。この需要の高まりは、植物とそれを管理し、これらの実践に専念する文化の生物学的・文化的持続性に多大な影響を及ぼしています。

現在、イボガをめぐる世界の生態系はバランスを欠いています。植物原料の起源や、イボガの本来の治療的・精神的知識は、しばしば認識されず、法律や政策にスティグマが存在し、イボガの治療的・精神的特性を理解できないままです。現在、国際社会は（例外はありますが）中央アフリカのブウィティ・コミュニティのような人々と正しい関係を築いていません。植物とこれらの人々との互恵関係は、尊敬の基礎を築き、その上にすべての人のための癒しと健康をサポートする構造を構築するために重要である。

先住民や土地から資源を奪い続ける植民地主義の遺産があるにもかかわらず、イボガには、これまでとは違うやり方をする機会があるのです。

おすすめポイント

1. 国際的なネットワークを強化し、異文化・分野横断的なネットワーキング、コミュニケーション、コラボレーションの機会を創出する。

コミュニティ、人、サービスのインフォーマルなネットワークが調和して機能し、メンバー全員に利益をもたらすためには、これらのネットワークが積極的かつ相互的につながり、連携したネットワークの力と利益を認識する必要があります。私たちは、力の不均衡に対処し、架け橋となる機会を創出するために、合意された原則に基づいて、つながり、対話し、協力する機会を設けることを推奨します。具体的には、より意識的で組織化されたネットワークで活動することで、以下のことが可能になります。[2]

- "**各グループの支配的な物語を変え**、すべてのアクターの特殊性を包含する集団的な物語を再構築し、流動的な相互関係を促進させる。
- " **情報の流れをより透明化し**、アクセスしやすくする
- " **より公平なリソースへのアクセスを実現する**
- "**自己組織**化と民主的エンパワーメントを**支援する**
- "**政策立案者と**協力して、政策や手続きを変更し、ネットワークに関わるすべてのステークホルダーにとって、より公正で持続可能な手段や目的の開発を促進する。

さらに、これらのネットワークや新しいイニシアチブを構築・強化する際には、イボガの伝統的な管理者、すなわちガボンのブウィティ族のコミュニティを含めることが不可欠であり、自然環境はこの仕事の行為者でありパートナーであることを考慮しなければならない。イボガとイボガインに関連するすべての活動において、生物文化の保護は最優先事項として考慮されなければなりません。

2. 国際的な治療クリニックとセレモニーファシリテーターの間で連携と連帯責任を育むボトムアップの自己規制プロセスを確立し、地域的・国際的に規制プロセスに情報を提供する。

イボガとイボガインに関わる国際的な関係者は、日常的な実践の中では直接的な協力関係がないとしても、相互に関連している。これらの関係者（治療クリニックや精神的スピリチュアルグループなど）のほとんどは、正式に組織化されていない。しかし、アヤワスカのような他の民族植物に関連するコミュニティの経験から、イボガとイボガインのコミュニティも、基準を設定し、共通の利益を明確にするために、団体に参加することで利益を得られる可能性があることがわかります。地域の医療制度では認められていなかった、あるいはまだ認められていない、新しい健康や福祉の分野で活動する類似のコミュニティによって設立された、成功したイニシアチブが数多くあります。その一例が、中国以外の伝統的な漢方医が、米国、特にカリフォルニア州などの国々で、どのようにして専門家団体を組織したかということです。[3]

オランダでは、アヤワスカを扱う個人やコミュニティ、トリュフを合法的に扱う診療所や施術者が集まり、協会を設立しています。[4]これらの事例で共通しているのは、共通の懸念やベストプラクティスを議論し、実践のコミュニティを構築するために集まったグループから始まったということです。こうしたプロセスを経て、倫理的なアプローチを開発し、最低限の安全基準やサービスの品質といった共通の問題に対処できるよう、集団責任の傘の下で組織化することを決定しました。

さらに、これらのグループが共通の傘の下に集まることで、グローバルな文脈の中で強力な集団の声を生み出すことができ、これらの実践が地元の立法機関や国際的な立法機関によって規制されることになるため、地元の行政機関との関係を築くことができます。このため、クリニックやイボガやイボガインを扱うすべてのグループが対話に参加し、一致点を明確にし、集団運動を構築することが非常に望ましいのです。これらのコミュニティが集まり、経験や知識を共有することで、神聖な植物を扱う責任ある国際社会の模範となることができます。国家間のコミュニティは、アフリカ以外でのサービスや実践が、どのように安全に行われ、原産地のコミュニティと互恵関係にあり、サポートできるかを決定するために協力することができます。

---

3. イボガやイボガインに関する新たなエビデンスの創出に取り組む研究グループ、大学、企業、非政府組織間の連携を促進する。

研究や科学は、決して単独で発展してきたわけではありません。科学は、既存の証拠や知識の上に構築され、相互扶助の文脈で繁栄し、関係者がより包括的な証拠を生成するために互いにサポートし合うものです。現在、イボガ、イボガイン、またはその類似品についてより詳しく知ろうとする学者、非政府組織、製薬会社、治療クリニックによる複数の研究が開発中です。競争が激しく、一部の研究者に利益動機がある現状では、初期の研究結果や未発表の研究結果を共有することは普通ではありません。

さらに、現在懸念されているのは、いくつかのグループが、特に天然に存在する精神作用のあるアルカロイドの生産方法や特定の用途に関する特許を世界中で「競って」申請していることです。伝統的なコミュニティは、精神作用のあるこれらの植物、菌類、動物の分泌物、およびそれらの治療 特性について歴史的な知識を持っています。これらの天然物質やその応用に関する知識が特許化される可能性は、非常に議論の多いテーマであり、反対の立場から擁護する活動が行われている。

今後のアプローチは、抽出主義とは異なる方向に進み、その代わりに、協力的で利益を共有するために役立つ知識のシステムを構築する必要があります。質の高いエビデンスの生成を加速させるために、研究への共同アプローチが奨励される。その結果、イボガとイボガインの政策や規制、伝統的な臨床治療法への情報提供に好影響を与えるでしょう。より大きな協力は、イボガ、イボガイン、およびその類似品に関するあらゆる側面、すなわち、栽培、生産、治療、療法、政策などに関しても、より良い影響を与えることにつながるだろう。

さらに、先住民の研究方法と知識を公平に考慮することが最も重要である。先住民は、ブウィティ伝統医学の認識論的枠組みの中で、イボガを使用する歴史的な専門家である。これらのブウィティの専門家は、植物が他の植物とどのように相互作用するかを知っており、現代の科学的議論、特に単一の生物医学的モデルでは通常考慮されない変数について明確な理解を持っています。しかし、科学や研究において伝統的知識保持者のためのスペースを確保するための措置が取られる中、これらの地元の専門家から知識を「抽出」せず、データの所有権と管理を彼らのコミュニティ内で収集することが極めて重要である。また、研究イニシアティブは、イボガの本来の管理者に利益を還元する方法を検討する必要があります。

名古屋議定書は、先住民の伝統的知識を保護し、その利用による利益を共有することを目的とした重要な国際条約です。この議定書は、先住民や地域社会が保有する遺伝資源に関連する伝統的知識へのアクセスに関心を持つ当事者が、これらの地域社会から事前に情報を得た上での同意または承認と参加、および相互に合意した条件が確立されていることを保証するための措置を、各締結国の国内法で適宜講じることを定めている。[5]また、以下のものがある。

例えば、カナダの OCAP 原則は、所有、管理、アクセス、所有の原則に従って、データ主権への道を歩むファーストネーションの情報管理のための枠組みを提供するものである。[6]

4. イボガとイボガインを用いた実践に関連する人権を促進するために、共通のナラティブとアドボカシー活動を構築する。

中央アフリカ以外では、イボガとイボガインは、一般市民にも、地方、国、国際的な政府や団体にもあまり知られていません。イボガやイボガインを合法化し規制することの潜在的な利益について認識を高めるために、いくつかの国（アメリカ、カナダ、南アフリカ、ニュージーランドなど）で長年にわたって多くの努力がなされてきましたが、共有の物語を作るための努力はなされてきませんでした。イボガとイボガインが何であり、何でないのかについての共通した言説はありません。ある人はイボガインを「奇跡の治療法」と言い、ある人は「人を殺す危険な物質」と言い、またある人はイボガを他の植物と同様の精神作用のある植物と表現するなど、様々な言い分があります。

イボガの承認を求め、イボガやイボガインに関係する人々の権利を守るという共通の目的は、このような明確性の欠如によって損なわれており、場合によっては人々が法律上のトラブルに巻き込まれることもある。戦略的に行動するためには、アドボカシーの世界的な専門家を集め、集団的で証拠に基づいた、伝統的な知識に基づいたナラティブを共同で構築し、戦略的な取り組みをサポートすることが望ましいと考えられます。特に人権や先住民の権利、健全な政策の重要性など、共通の意味づけを行い、共通のナラティブを使用することは、取り組みを強化することにつながるでしょう。また、ナラティブをテストし、ミメティックスやデジタルキャンペーンを利用して意識を高める仕組みもある。

5. すべてのプロセスの中心に互恵性の原則を置き、植物とその起源、そして伝統的な管理者を尊重することを強調する。

互恵関係は、世界中の多くの先住民族の文化に組み込まれている原則です。それは、他の人、コミュニティ、または実体（自然、存在、精霊など）と相互かつ直接的な 方法で関係することである。相互のつながり、尊敬、そして正しい関係を意味します。レシプロとは、私たちはすべてつながっており、贈り物を受け取ったら、直接的または間接的にお返しをするのが私たちの義務であるという深い認識からきています。

イボガは、中央アフリカ、特にガボンのさまざまなコミュニティで伝統的に使用されてきた民族植物である。その精神的、霊的、肉体的な恩恵と、現在「サイケデリック医学」と呼ばれるような素晴らしい効能は、植民地やポストコロニアルの利害関係者が発見し、自分たちの利益のためにそれを利用しようとするまで、世代から世代へと受け継がれた。過去の搾取をどう償うか、そしてイボガとその原初の管理者との神聖な相互関係をどう築くか、この問題は、伝統医学の担い手や国際社会全体とのより広い対話が必要なものである。このような議論は、中央アフリカやその他の地域で栽培されているイボガや、イボガイン、そして今後開発される抽出物や合成物質についても考慮する必要があります。したがって、このトピックを深く掘り下げることは、このページではできませんが、いくつかの種を蒔くことにします。

互恵関係へのアプローチとして、より分かりやすいのは、「rela-tionship（正しい関係）」という原則に根ざしたものです。イボガや抽出されたイボガインは、現在では世界各地で販売・使用されていますが、その原点は中央アフリカにあります。本来の人間と植物の関係は、ピグミー族から始まり、バンツー族へと受け継がれていきました。現在、この知識はブウィティ族のコミュニティによって保持されています。このような伝統的な知識保持者と正しい関係を築くには、まず「認める」こと、つまり引用の習慣を身につけることから始まります。

そして、これらの実践や教えの起源となる場所や文化を名指しすることです。現代の西洋文化は、先住民や知識を抹殺したり、美化したりする傾向があり、最悪の場合、抽出主義（利益のために植物原料や教えを採取すること）や文化の横領（自由に与えられていない教えを使用したり、知識の源を認めなかったり、他者の文化遺産を利用すること）となります。互恵性を育むための最初の、そして最も基本的なステップは、先祖代々の伝統と生きた文化を認め、認識し、尊重することにある。

オゴウエ・イビンド州のエビエン共同農園で、子供にイボガの育て方を教える A2E 協会員。©Ricard Faura

互恵性の 2 つ目の糸は、より精神的なもので、ブラックフィート族とサルク族の北米先住民の長老であるダンカン・グレイディが提供する教えで表現されています。[7] グレイディは、互恵関係を神聖なものにするのは、私たちがこれらの実践から受け取ったものをどのように生きるか、つまり、教えと教訓を尊重し、それを私たちの生活に取り入れることに根ざしたものであると主張しています。イボガに関して言えば、神聖な互恵関係は、儀式や臨床治療を通してこれらの実践に関わった個人が、その経験を世界に持ち出し、統合し、熟考し、学んだことを共有する時間を取ることでその経験を尊重するときに、生きてくる。

次のスレッドは、物質的な互恵関係に関するものです。イボガ植物、知識、文化は、1900 年代初頭以来、これらの利益を共有することを考慮することなく、源泉から遠く離れた個人や企業に利益をもたらすために、中央アフリカから抽出されてきました。文化の盗用と抽出主義というこの植民地的遺産は、賠償と、この遺産を基にした現在の活動を中断させるための確実な努力によって対処されなければなりません。私たちのイニシアティブのフェーズ 2 では、ガボンを訪れ、コミュニティーのメンバー、ブウィティの実践者、NGO、政府関係者と、この是正方法について話をしました。しかし、その一方で、経済的な利益を地域社会に還元してほしいという要望もあった。この経済的互恵関係には、さまざまな形がありそうで、十分に検討・拡大する必要がありそうだ。

このような生物文化植物とその関連知識の商業化から生じる経済的利益を規制しようとするいくつかの政策イニシアチブに注目する。重要なものは、名古屋議定書（2010 年）であり、この議定書では、生物多様性の保護に重点を置いています。

遺伝資源と、その利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分。アクセスと利益配分（ABS）法は、共有の知的財産をめぐる解決策を構築するのに適した手段であり、天然物の商業化から得られる利益を、その知識で決定的な貢献をした地域社会とどのように共有すべきかに焦点を当てる。伝統的な知識はパブリックドメインに存在するため、特許を取得することができず、そのような知識に対する補償は、グローバルな合意構造を通じて行われなければならないことに留意する必要がある。この点については、国連機関である世界知的所有権機関がモノグラフを作成し、関係者に最新情報を提供しています。

アドゥエ・イヴィンゴ州エビエンのイボガ・コミュニティ・プランテーションで働くA2E アソシエーションの女性たち。
©Ricard Faura

具体的な規制がないにもかかわらず、科学者、企業、先住民のコミュニティの間には、尊敬に値する模範的な協力関係がいくつか存在し、そこから一連の製品や知識が開発されてきたのです。例えば、この種の製品の商業化の利益は、最終的に市場性のある製品に変換された知識を元々持っていたコミュニティと共有されることが指定されているものもあります。場合によっては、総利益の 10％から 20％がコミュニティと共有されることもある。イボガに関しては、この知的財産と利益のアクセスと分配の論理は、イボガ、イボガイン、またはその類似品の生産、商業化、使用から経済的利益を得る一連の活動、ビジネス、製品に適用することができます。[8]

最後に、互恵性とは、人々や地域社会とのつながりを生み出す機会を意味する。精神作用のある植物を使った体験がもたらす影響のひとつに、自然界とのつながりをより強く感じることができる。イボガに関して言えば、国際的なレベルで関わる人々は、中央アフリカの伝統的な医療従事者やコミュニティと、西洋世界のコミュニティ、機関、企業とのつながりを作る手助けをする機会がある。このようなつながりから、連帯と互恵のネットワークが生まれ、森林の保全と再生、生物文化的知識の再生と尊重につながる可能性があります。

B: 生物文化再生と 持続可能性

B ：生命文化の再生と持続可能性

結論

1. 中央アフリカ、特にガボンでは、野生のタベルナンテ・イボガが乱獲され、持続可能性に影響を及ぼしています。

イボガとイボガイン（現在も主に*イボガから*抽出される）の規制のない世界市場から生じる最も懸念される問題は、植物の持続可能性の問題である。野生のイボガ個体群は、過剰収穫、不適切な収穫技術、密猟、闇市場販売、生息地の破壊による圧力に直面しています。[9]国際自然保護連合の絶滅危惧種レッドリストでは、*イボガは絶滅*危惧種には指定されていませんが、要注意植物に指定されています。[10]

2019 年 2 月、ガボン政府は、植物の持続可能性に懸念を示し、ついに公的なドゥメインからの輸出をすべて停止しました。ガボンは、プロセスは進行中のようですが、民間またはコミュニティのプランテーション（下記参照）からの合法的な輸出を可能にするメカニズムをまだ正式には確立していません。現在、この国からのイボガの合法的な輸出は公式に禁止されています。当面の間、イボガ輸出市場は、ガボンと中央アフリカの森林からイボガを抽出し続ける違法ネットワークの手に委ねられることになります。

イボガとイボガインに関連するすべての活動は、栽培、収穫、流通、研究、政策、儀式や臨床使用まで、イボガの持続可能性とその再生、ひいてはガボンと中央アフリカの森林の健全性に直接影響を及ぼします。[11]したがって、すべての関係者は、この重要な問題に対する自分たちの行動の直接的、間接的な影響に対処する責任を共有しているのです。

ガボンの現状は複雑で、公有地からのイボガの抽出と販売は禁止されていますが、実際には、存在する少数の個人またはコミュニティのプランテーションは、イボガの合法的な輸出を持続的に開始するための許可を得ていません。現在、コンゴ民主共和国やカメルーンなど、この地域の他の近隣諸国では、急速に成熟しつつある*イボガ*農園が存在します。しかし、カメルーンの輸出に関する情報には、賛否両論があります。一方では、同国でも安定したプランテーションが始まっているとの情報もあるが、例えば写真だけで、どこで撮影されたものなのかの保証はない。一方、ガボンを拠点に国際的なイボガ市場を監視している団体は、様々な違法輸出ネットワークがガボンで野生のイボガを採取してカメルーンに密輸し、カメルーンの標準的な合法製品として販売するのに必要な許可を得ているという証拠を集めています。[12]

アフリカ以外の熱帯地域でも、コスタリカなどではすでに重要なプランテーションが設置されています。これらの取り組みが、*イボガ*（またはイボガイン）を供給し、トレーサビリティの確実な保証と輸出の法的許可を提供できるかどうかは、まだわからない。これは、購入者が高品質の製品を購入し、それによって中央アフリカの生物文化生態系の破壊に加担していないことを保証するための前提条件として常に必要なことです。いずれにせよ、現在国際市場で販売されているイボガや、この植物から直接抽出されたイボガインの大部分は、ガボンを中心とする中央アフリカの森林に何年も隠れて生育している野生標本から違法に採取されていることは間違いないようです。そのため、現在、この地域のイボガは、すべて規制のない市場によってコントロールされていると言えます。

は、トレーサビリティの保証が全くないため、倫理的または持続可能であると考えられています。このような状況により、イボガやイボガインを扱うクリニックや、精神的・霊的な理由や心理療法的な理由でイボガを入手する個人やコミュニティは、違法なイボガ市場に頼ってしまうのです。意識的であろうとなかろうと、彼らはこの神聖な植物の堕落の進行に協力することになるのです。

2. ガボンだけでなく、他のアフリカや熱帯の国々で持続的に*タベルナンテ・イボガ*を栽培することで、地域社会や生態系に利益をもたらすことができます。

イボガに対する国際的な需要は高まっており、野生植物の収穫が持続可能でないことは明らかであるため、代替手段を模索することが重要です。いくつかのプロジェクトは、地域社会や生態系に利益をもたらす方法でイボガとイボガインを生産するための未来の姿についての洞察を与えてくれます。

ガボンでは、有望な*イボガ*植林の例がいくつかあるが、まだ株が若く、植林が成功するかどうかは不明である。また、2 万本から 3 万 5 千本の*イボガを栽培する*モノカルチャー農園もあり、この地域でのモノカルチャー農法の影響も懸念されています。一般的な農業では、中央アフリカではコンゴ盆地の森林を犠牲にして、モノカルチャー農場モデルが大きく発展してきました。この地域はユネスコの世界遺産に登録されている自然遺産で、アマゾンに次ぐ世界第 2 位のバイオマス保護区である。特にモノカルチャー栽培は、バランスのとれた生態系の中では直面しないさまざまな問題に直面しやすいこと、また、現在の地球規模の気候の緊急事態において、これ以上の森林破壊は望ましくないことから、長期的な解決策とはみなされていません。

野生の*イボガが*どの程度生息しているかという詳細な調査がないため、この植物が中央アフリカの固有種であり、この地域のさまざまな国で発見されていることだけは確かである。ガボンは、野生のイボガが最も多く生息している国であり、いくつかのプランテーションモデルが確立されている地域でもあるようです。さらに、カメルーン、ガーナ、コンゴ民主共和国、コスタリカ、メキシコ、ブラジルでもプランテーションが行われているとの情報があります。しかし、これらのプランテーションが存在する確かな証拠を得ることは、必ずしも可能ではありませんでした。これらの栽培の範囲と実行可能性を判断するためには、さらなる調査・研究が必要です。

イボガインの生産がガボン産の野生*イボガに*代わる供給源へとシフトしているにもかかわらず、持続可能性の基準に従って栽培・収穫されたイボガ根皮、つまり「フェアトレード」の一種に対する国際的需要があることが証明されています。本レポートで述べたように、イボガは収穫地や栽培地を特定できる「トレーサブル」なものである必要があり、また、アルカロイドの含有量を示すラベルが必要であることも指摘されています。[13] また、国際的な販売によって地域社会が利益を得ることも含めて、フェアトレード製品の基準を設けている例も多くあります。

3. ガボン政府が短期的にイボガ栽培の規制と効果的な輸出をどのように進めるかは、長期的には国内外でのイボガの将来に影響を与えることになります。

ガボン政府は 2000 年にイボガを国家遺産として認定し、2019 年 2 月に許可証を持たない者への輸出を禁止しました。これは、政府が行動の必要性を認識し、また状況を管理しようとする意図があることを示しています。現在の輸出禁止は、公有地の*イボガにのみ*適用され、私有地や共同体のイボガであれば、輸出の道が開かれます。この規制の主な目的は、この 植物の密猟と大量輸出を阻止することでした。

このため、自然環境におけるこの固有植物の保護と、政府公認のプランテーションからの規制された輸出ビジネスの両方を促進することができます。

" 2019 年 2 月、ガボン政府はこの植物の合法的な輸出をすべて停止しました。つまり、イボガインの入手には、当分の間、*イボガの*代替品か違法市場から直接入手するしかないのです。政府が取った最新の措置は、アクセスと利益配分に関する名古屋議定書に準拠したコミュニティベースの植林を推進することに同意していることを示すものかもしれません。しかし、このプロセスが中期的にどのように発展していくかを注視していく必要があります。

" 2020 年 9 月、ガボン政府水・森林省が NGO「Blessings Of The Forest（BOTF）」と連携協定を締結しました。

ガボン、[14] 、品質、トレーサビリティ、公正取引、地域社会との互恵関係といった明確な基準に従って栽培された植物の輸出プロセスを開始することを、地域団体 A2E に許可しています。また、今後 5 年間、同国のさまざまな地域で新たなコミュニティ・プランテーションを設立するための支援についても合意しています。

"したがって、*イボガの*再生を支援し、地域社会にプラスの経済効果をもたらすための措置が取られているように見えます。しかし、ガボンの政治情勢は微妙で、生産、輸出、流通に関する規制もあいまいなままであるため、地域社会の利益や地域の生態系のニーズを無視した企業が参入する可能性がまだ残されている。慎重な計画とアドボカシーがなければ、森林破壊を含む有害な影響を及ぼす可能性のある大規模なモノカルチャー栽培の開発につながる危険性がまだ大きい。

4. *イボガインの*生産は、ガボンや中央アフリカの野生植物の個体数に対する圧力を軽減することができます。

これは、国際的に利用可能なイボガインの供給量を増加させるとともに、ガボンや中央アフリカの自然生態系における*イボガインへの*圧力を減少させるという重要な効果を短期から中期的にもたらす可能性があります。

イボガインの生産に必要なイボガの供給源に対する需要の高まりは、いくつかの分野の研究開発に新たな着手を呼び起こしました。まず、医療・科学用、主に医薬品市場向けの合成・半合成イボガインや類似の分子化合物の製造方法に関する研究への資金提供への関心が高まっています。投資家たちは、イボガや *Voacanga africana* のような有機物質に頼らず、研究所で開発できるイボガインの 設計、特許取得、製造に資金を向けています。現在、以下のような分野で研究が進められているようです。

"**合成イボガイン** 1966 年に合成イボガインの製造方法が発見されましたが、現在、その製造方法は採算が合うような拡張性はありません。合成イボガインは、植物原料を必要とせず、既存の前駆体を用いて製造することができます。これからのイボガイン生産はこれでいいのだ、という意見も多い。

"**非精神作用の合成イボガイン。**現在、イボガインの抗中毒性を維持しつつ、精神作用のないイボガイン類似体の製造が進められています。例えば、ノリボガイン、18-MC、最近では Tabernanthalog（TBG）などがある。ノリボガイン（12-ヒドロキシイボガミン）はイボガインの主要代謝物で、イボガインが消失した後も体内に長く残ります。一方、18-MC（18-Methoxy-Coronardine）は、イボガインの合成共役物質である。

元のアルカロイドの骨格をモデルにしているもの。TBG は 18-MC と同じ目的で 2020 年末に発表された合成分子で、本格的な開発段階に入っている。

" **細胞培養イボガイン**細胞培養によるイボガイン塩酸塩の生産が行われているが、大規模な生産が可能かどうかはまだ不明であり、その実現は難しい。

"**半合成のイボガイン**。現在、*Voacanga africana に含まれる* Vo-acangine から合成される物質です。製造方法が特許化されており、現在、半合成イボガインエキスの製造に向けた取り組みが資金を集めて進められています。*V*. africana は、*T. iboga* と同じく*セリ*科の植物で、イボガインを含んでいますが、その抽出がメーカーにとって収益性の面で効率的であるほど十分な量ではありません。しかし、この植物にはボアカンジンという別のアルカロイドも含まれており、半合成イボガインの製造に利用されている。この植物は、すでに重要な*非木材林産物*（NTFP）として栽培され、ガーナ、カメルーン、ナイジェリア、コートジボワールなどの国々から、医薬品化合物製造の前駆体として国際的な製薬会社へ輸出されています。イボガインは、国際的な保健機関が規制する国際的な医薬品として栽培されているため、現在、イボガインを合成できる唯一の原料となっています。

おすすめポイント

1. *タベルナンテ・イボガ*の需要の高まりが、生物文化の持続可能性に与える影響について、国際社会が協力して認識を高めるよう促す。

倫理的で、追跡可能で、持続可能な*イボガ*の供給が可能になるまで、中央アフリカ以外の地域でイボガやイボガインに取り組む個人、グループ、クリニック、リトリートセンターは、故意にあるいは無意識に、現在の持続可能性の危機に一役買っていることになるのです。イボガなどの植物性医薬品のグローバル化を考える上で、協調的責任は基礎となる価値観です。供給源と使用（臨床、儀式、個人）の間の物理的な距離は、生物文化の持続可能性に対する責任という点で、潜在的な道徳的・倫理的距離を生み出します。

収穫から消費までの距離が遠ければ遠いほど、また関係者が多ければ多いほど、断絶は大きくなります。上述のように（C2 参照）、倫理的および持続可能性の問題に対処し、原産国以外で購入されたイボガとイボガインを追跡できるように、サプライチェーンに光を当て、地上に浮かび上がらせる必要があるのです。持続可能性の問題は、イボガと深い文化的関係を持つ中央アフリカのブウィティやその他のコミュニティに与える影響とも明確に関連付けられなければなりません。

この現実は、イボガとその派生製品の国際的な購入者に、植物体の出所に関するデューデリジェンスを行う義務を課しています。しかし、残念なことに、誤った情報も多く、多くの販売者は、製品の出所の持続可能性について説得力のある主張をしています。イボガとイボガインを使った治療が増加していることを考えると、現在の課題は、野生で利用可能な植物の数が現時点でこれらの需要を満たすことができるかどうかを問うことであり、もしそうでなければ（証拠が示している）、この現実に取り組むために私たちは集団的に何をするつもりなのか？

持続可能性が保証されるまでは、イボガを治療や精神的な作業の道具として使用するすべての人に、倫理的で追跡可能で持続可能な選択肢が保証されるまで、この種に代わるものを探すことを真剣に検討してもらいたいと思います。

2. アグロフォレストリーや再生農業に取り組む農園を増やすため、アフリカやその他の熱帯地域のイボガ農園の現状を把握する具体的な取り組みに取り組むこと。

イボガは野生で採取できるため、中央アフリカなどでは栽培の伝統はありません。しかし、需要の増加により野生個体群への国際的な圧力が高まっているため、生育可能な地域での栽培モデルが求められています。そのため、すでに野生で生育しているガボンや中央アフリカをはじめ、世界の熱帯地域でプランテーションを開始することになりました。イボガの 栽培は、アフリカ（カムエルーン、コンゴ民主共和国、ガーナ）、中米（コスタリカ、おそらくメキシコ）、南米（ブラジル）の熱帯地域の他の国々ですでに行われているが、どの程度かは不明である。しかし、このような取り組みには多くの秘密があり、植物医薬品に関する法的枠組みや利益動機の影響を受けている。*イボガが栽培*されている場所の監査が必要かもしれません。

大規模な単一栽培は生態系を破壊し、地域社会に利益をもたらさないからだ。イボガは主に森林の下層で生育するため、アグロフォレストリー、パーマカルチャー、再生農業など、このシステムを模倣した生産技術が推奨されます。これらのアプローチは、環境の持続可能性の強化、地元の人々の経済的機会の活性化、生産的多様性の促進、社会的公平性の強化、既存のシステムの生物学的・文化的多様性の保護に役立つと思われます。アグロフォレストリーの取り組みや再生農業は、コミュニティレベルで開始されており（下記 R4 参照）、現在、ガボンや他のアフリカ諸国では、イボガや ***V. africana*** の栽培のためのアグロフォレストリープロジェクトへの投資に関心を持つ国家間の組織もある。

さらに、ガボンの地域密着型イボガ農園は、国内の一部で深刻化するイボガ不足の解決策になると同時に、農村に新たな収入源を提供する可能性もあります。

3. 持続可能なイボガプランテーションの開発と生物文化保護を優先する、協力的で倫理的な資金提供プログラムを作成する。

数カ国の様々な場所で多様なプランテーションの実施を後押しする慈善基金の設立は、今後 10 年間、国際市場にイボガを持続的かつ高品質に供給するために大きな助けとなる。また、慈善事業の資金援助によるプランテーションの開発は、プランテーションの近くに住む人々やコミュニティ、そしてこの植物を利用してきた先祖代々の人々との互恵関係のメカニズムの実施を活性化することができます。また、これらのコミュニティによって開発され、共通の利益のために活動する他のプロジェクトも、コミュニティと民間の両方で、同様にこの資金の恩恵を受けることができます。

自然保護分野における資金提供は、能力を高め、地域コミュニティが解決策の一端を担えるようにするために行われるべきである。資金提供者、支援者、精神的なコミュニティーのメンバー、栽培者の間のコラボレーションは、透明性、脱植民地化、エンパワーメント、説明責任の原則に基づくものでなければならない。

4. イボガインやその他のアルカロイド、化合物を抽出するための *Tabernanthe iboga*（*Voacanga africana* など）の代替資源を研究し、投資する。

現在、医療・治療用としてのイボガインの需要が今後増加することを予見させる傾向があります。このアルカロイドの抽出を*イボガに*依存している現状と国際的な需要の高まりは、*イボガの*野生個体群への圧力を高めている課題（上記 C2 にて詳述）を示して*います*。このような状況は、ガボンや中央西アフリカの他の地域のブウィティ・コミュニティの野生での植物の生存を危険にさらすかもしれません。

さらに、イボガインの抽出を *T. iboga* に依存している現状は、臨床や治療に使用するイボガインの安定した入手にも影響を及ぼしています。*イボガンの*代替資源を特定し、植物とガボンのブウィティ族のコミュニティを保護する一方で、精神衛生上の問題に対するサイケデリックな薬理学的解決策に対する世界的な投資の拡大に大きな機会を提供する研究が必要である。

V. africana は、もっと注目されるべき潜在的な代替品である。イボガインのうち、*V. africana* に由来するものはわずかな割合に過ぎません。2019 年の報告書では、アンケートに参加した治療提供者のうち、*V. africana 由来のイボガインを使用していると回答したのは*わずか 20％でした。[15] *イボガ*由来製品の多くの販売業者のウェブサイトでは、持続可能性や優良な慣行について主張されていますが、現在のところ、トレーサビリティを本当に主張できるのは、合法な *V. africana* 農園から調達されたイボガインだけであるというのが実情です。したがって、生産プロセスが違法な密猟を誘発せず、犯罪組織が流通経路から排除されることを保証する唯一のものでもあるのです。

したがって、密猟された持続不可能なイボガとその派生物の購入に参加したくない様々なクリニックやセンターは、追跡可能な *V. africana の*供給源から得られる代替品を探すことが推奨されます。トレーサビリティのある新たな選択肢も出てくるでしょうが、今のところ、*V*. africana が市場で唯一の「倫理的」な代替品となっています。したがって、*V.africana の*新しいプランテーションへの投資は興味深い選択肢であると思われる。半合成イボガインの抽出量は、*イボガから*直接抽出される量よりはるかに限られているが、植物全体が薬理学、栄養学、化粧品、繊維、音楽など多くの用途に使用されており、現在独自の市場と需要があることに注意する必要がある。

5. ガボンにおいて、イボガの持続的な栽培と輸出を支援し、コミュニティの利益を優先する規制の枠組みを引き続き提唱する。

現在の規制では、公有 林から収穫されたイボガをガボンから輸出することはできず、私有地で栽培されたものだけが輸出できるようになっています。この規制をどのように実践していくかは、まだ始まったばかりです。

ガボン政府は、透明性が高く、地元のステークホルダー（ブウィティ・コミュニティ、科学分野、国内外の投資家、地元産業、地元の森林や生態系）との協議を通じて策定された政策や手続きを策定することが不可欠である。

革新的な政策の展開は、その道を切り開く可能性があります。

- "ガボン国内および国際市場向けに、イボガや蜂蜜、果物、伝統薬などのアグロフォレストリー製品を生産する、コミュニティ団体や民間事業者が管理するアグロフォレストリープランテーション。
- "技術、知識、専門資源の国際的な移転によって促進される、国際的に販売される高品質の製品を生産するためのガボンのビジネスと技術基盤の開発。

"*イボガ*を用いた研究（植物学、伝統医学、薬学、人類学、地域開発などに関する分野）の発展のために、国内外の大学と産業界との研究コンソーシアムや連携を促進すること。

"生物文化の保護と復興に導かれた上記への国際投資と、この文化的宝物の国際化から利益を得るためにガボンや他のアフリカのコミュニティを支援する意図

C:伝統的なヒーリングと新しいヒーリングの認識と進化 アプローチ

C: 伝統と新しいヒーリングアプローチの 認識と進化

結論

1. 医薬品グレードのイボガインが臨床で使用できるようになれば、治療へのアクセスが改善される可能性がありますが、この機会には倫理的、アクセス性、持続可能性の問題があり、考慮する必要があります。

多くの国の政府は、国民が直面する依存症や精神衛生上の問題に対する解決策を見つけるのに苦労しています。伝統的なイボガ療法や臨床イボガイン療法は、こうした健康上の課題に対処し、人々の健康を改善し、最終的に政府の費用を削減することが期待されています。このような治療法の普及に伴い、投資家たちはイボガインの生産量を増やし、臨床での利用を拡大する道を模索しています。

重要なことは、高品質のイボガインが手頃な価格で入手できるようになることで、金銭 的に余裕のある人だけが治療を受けられるのではなく、必要としている人が治療を受けられるようになることに貢献する可能性があるということです。また、高品質のイボガインが入手しやすくなれば、合法的なアクセスの拡大を検討している政府が必要とする研究の増加にもつながるでしょう。

しかし、伝統的なブウィティのコミュニティや野生の*イボガに悪影響を与え*ることなく、利益を最大化するためには、考慮しなければならない懸念事項がある。フェーズ 1 の調査結果では、現在使用されているイボガインのアルカロイドは、イボガが主な供給源であることが示されています。[16] 残念ながら、ベンチャーキャピタルの倫理観は、透明性、共有利益、協調性を助長するものではなく、むしろ競争、特許、人や環境よりも利益を求めることに重点を置いていることが多い。しかし、イボガイン製品や臨床治療モデルの開発は、植物から伝統的なコミュニティ、生産、マーケティング、臨床モデルまで、エコシステム全体の健全性を考慮した、異なる道を選ぶことができます。

全体論的で生物文化に配慮したアプローチというビジョンを持ちながら、現在のリスクをいくつか概説することが重要である。第一のリスクは、多国籍企業が製造方法やプロトコルを特許化し、伝統的なコミュニティや西洋医学のサブカルチャーで培われた知識を表向きは囲い込み、利益を少数の人の手に集中させようとすることです。特許取得に対する批判のひとつは、イボガが中央アフリカに自生し、そのアルカロイドが固有であることを考慮しない、バイオパイラシーの一形態であるというものである。特許権者は、何世代にもわたって植物の知識を発展させ保護してきた中央アフリカの先住民コミュニティの知的財産権から利益を得ることになる。物質やプロセスの特許は、研究開発を遅らせ、イノベーションや異文化コラボレーションを困難にする可能性もある。

しかし、イボガインの開発が、利潤が公益に優先する典型的な西洋の医薬品開発モデルに従えば、治療効果を享受できる人は限られることになる。これは、米国のように強力な国民皆保険制度がない国や、政府が新しく承認された医薬品を手頃な価格で入手できるよう交渉する能力が限られている国において、最も顕著に感じられることでしょう。

イボガインの生産を拡大する際に、倫理や持続可能性に配慮することは、アルカロイドを、社会的、生態的、文化的な要素が相互に結びついた生態系の一部と考え、視野を広げることにつながります。

個人、コミュニティ、そして惑星の癒しをサポートする。そして、欧米諸国における治療の拡大には、中央アフリカのコミュニティが恩恵を受けることを考慮したアプローチが不可欠です。

最後に、イボガからアルカロイドを抽出してイボガインを製造する（あるいは半合成または完全合成のイボガインを製造する）ことは、追求されているアプローチであることに留意することが重要である。しかし、分子を "抽出 "することが最善の方法であることに、誰もが同意しているわけではありません。従来の薬理学は、主に単離された化合物の研究に重点を置いてきました。しかし、このアプローチは、薬理学研究全般、特にサイケデリックドラッグ研究の理解の仕方に革命をもたらしているポリファーマコロジーという広範なパラダイムによって、ますます挑戦的になってきています。この視点は、精神作用のある植物や菌類の場合、製品全体を使用しなければ、何かを見逃してしまうかもしれないということを示唆している。[17]さらに、伝統的なブウィティ族の人々や、イボガを中心としたスピリチュアル・コミュニティに属する人々にとって、この抽出は植物の精神を失わせるものであり、それゆえ、癒しのための最大の可能性をも失わせることになる。このような考えを持つ人々にとって、イボガで依存症やその他の病気を治療する方法を模索することは、完全に臨床的なアプローチに移行するのではなく、伝統的な方法を維持することが望ましいと思われる。

---

2. 問題ある薬物使用に対するイボガやイボガインを用いた臨床療法は、その効果やホリスティックなケアモデルとして高く評価されていますが、ケアの基準は様々で、リスクの高い行為に対処する必要があります。

2019 年に実施した国際調査 [18] 、治療院が提供するサービスについて人々が最も重視する要素として、（1）治療の効果、（2）専門家チームと接する際に経験する社会的スティグマの欠如、の 3 つが指摘されています。
(3)治療中の保護と同伴の感覚。これらの回答者の多く（全体の 78％）は、これらのセンターで受けたサービスや治療に概ね満足していたが、3 分の 1 はサービスや条件が最適でないと考え、残りの 22％は受けたサービスが不十分であると考えた。参加者は、治療の成功は、一部のクリニックの専門的なメリットよりも、むしろイボガやイボガインによる治療体験に直接起因すると考えている。

また、現在の規制のない治療状況では、有害事象、さらには死亡事故があまりにも頻繁に発生することも重要な考慮点です。イボガインの投与に関連した死亡例がいくつかあり、その中には、心不整脈、心・血管系疾患の既往、イボガインの効果が現れる急性期にアヘン／オピオイドやその他の薬物を使用したことが関係しているようです。[19] 上記の報告書の中で、いくつかの厄介な傾向が確認されています。

- "**心電図（EKG）です。**多くのプロバイダーが治療前にあらゆる種類の医療検査を行うことに細心の注意を払っていますが、イボガやイボガインを投与する前に心電図（EKG）を行ったことがないと共有した人もおり、そこから、そのため患者の潜在的な心臓リスクについて認識していなかったと推測できます。
- " **血液検査**インターネット調査の回答者が通う治療院では、血液検査を実施しているところは約半数、イボガやイボガインを大量に投与する前に尿検査を実施していないところがほとんどであり、治療前に患者の体内からどんな物質が検出されるか、治療者が必ずしも把握していないことがわかる。
- "**ベンゾジアゼピン系薬剤とアルコール。**ベンゾジアゼピン系薬物とアルコールは、突然の禁断症状が起こり、致命的になる可能性もあるため、特に注意が必要です。

  の使用を中止することである。[20] オピオイドやコカインの問題使用で治療を受けようとする患者の多くは、ベンゾ系薬剤やアルコールの使用も報告しており、有害事象のリスクを低減するために、治療前にこれらの物質のスクリーニングが必要であることが示されています。

"**サイコ・スピリチュアルな次元**統合の実践は、治療の恩恵を持続させるための基本的なものと見なされるようになってきていますが、体験の精神的・霊的な側面は、治療提供者によりまだほとんど無視されています。イボガとイボガインの経験によってもたらされる機会の窓から、個人が十分に利益を得ることをサポートするために、全人的なケアを提供することに改善の余地がある。統合は、さらなる行動変容と、自分と家族、地域社会、環境との関係を維持し、その変容を育む実践の開発をサポートすることができます。

これらは、現在のサービスが不足している分野であり、クライアントの受け入れ、スクリーニングの質、サービス、統合支援に対する共通のアプローチの欠如を示すものである。さらに、このような療法にかかる現在の費用とアクセスの制限により、スクリーニング、準備、適切なサポートなしに行えば非常に危険なイボガやイボガインの大量自己投与の実践が増加していることに注目することが重要である。

---

3. ガボンでは、イボガは複雑な生物文化的伝統医療システムの一部であり、地域社会のヘルスケアを改善する機会を提供しています。この知識は、メンタルヘルスや依存症ケアシステムの改善に国際的に応用することができます。

ガボンでは、ブウィティの施術者だけでなく、多くの人々が伝統的な薬や療法を利用しています。また、他国からガボンへ渡航し、自国の医療制度とは別の方法で癒しを求める人々も増えています。伝統医療、補完医療、代替医療（TCAM）の可能性が認識され、関心が高まる中、伝統的な精神活性植物薬をモルキュールや商品として捉えるのではなく、生物文化的知識システムとの高度な関わりを持ち、精神医療における真の革命に貢献する機会があるのではないだろうか？[21]

国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、低・中所得国において精神医療モデルを実現するための活動を展開することを予見しています。同じように、グローバル・メンタル・ヘルス（GMH）運動も、治療費を払えない人々にもメンタルヘルスが行き渡るよう、世界中でメンタルヘルスの権利を普遍化することを目指しています。この運動は、人権の尊重とエビデンスに基づく治療という原則に基づき、特に低・中所得国において拡大しています。しかし、このアプローチがいかに有望であっても、推進者たちは西洋の心理学的・精神医学的な観点を優先し続けます。西側諸国で開発された精神医学的モデルを、伝統的に独自の精神衛生管理モデルを持っていた他の国々に拡張することは、この場合、精神衛生に関する特定の文化的モデルを他者に押し付けることにつながるポストコロニアル的要素を含んでいるのである。

イボガをめぐる実践は、TCAM の実践が西洋の文脈でますます関心を集めていることを示す一例となる。これは、原産国での伝統的な実践の重要性、そして世界に提供する可能性のあるものについてのさらなる対話と検討のための興味深い出発点である。[22]

おすすめポイント

1. サービスの質と安全性を向上させるため、イボガとイボガイン療法を提供する国際的なクリニックにおける診療とケアの標準を開発し、実施する。

イボガイン療法、特に問題のある薬物使用の治療を目的とした療法は、いくつかの領域でサービス向上のための大きな課題に直面しています。それらは以下の通りです。

- **提供されるイボガインの品質の向上と証明**
- **プロフェッショナルとノンプロフェッショナルのスタッフのトレーニング**
- **倫理的な方法で仲間を統合する**
- 精神・スピリチュアルな側面を扱う**十分な準備と統合の要素**、プロトコルの共有と優れた実践のフォローアップ、地域および国際レベルでの協力が**含まれていること**

イボガとイボガイン治療クリニックの理想的な未来は、クリニックが地域の法律に従って運営され、治療が必要なすべての人が一律に利用できる価格で治療を提供できるように規制することかもしれません。さらに、高用量を自己投与する人が増えているため（経済的、地理的に治療が受けられないことが多い）、利用しやすい害の軽減に関する情報を提供することが必要です。

医療の質の一貫性が達成されるまでは、安全性を確保するために、以下の重要な要素を臨床プログラムに含める必要があります。

- クリニックで使用されるイボガやイボガインは、証明できる品質であり、理想的には追跡可能であることで、自然環境や文化環境を尊重した方法で生産されていることを保証します。
- 当院には、医学的・心理学的なトレーニングを積んだ有能な専門チームがあり、イボガイン治療の候補者は、心理的・身体的な健康状態を慎重に審査されます（心電図、血液・尿検査、肝機能パネル、電解質パネル、心エコー図、甲状腺機能検査などの各種検査が行われます）。
- 依存症の治療を行う場合、クリニックの専門家チームが仲間を含み、積極的に非ステッグマティックを行い、患者の尊厳を優先することが重要である。
- 精神・スピリチュアルな次元と全体的な経験の統合は、包括的であり、統合前後のさまざまなセッションで、訓練を受けた経験豊富な専門家によってサポートされます。
- 当クリニックでは、包括的な治療・安全プロトコルを導入しており、オープンに共有されています。
- 当院は、地域や世界のネットワークにおいて、協力、連帯責任、相互支援のための健全なパートナーである。

2. 伝統医療、補完医療、代替医療（TCAM）を地域や国際レベルで公式に認めることは、世界中のメンタルヘルスや依存症ケアの改善に向けたアプリケーションの開発に貢献する。

代替認識論的モデルの探求イボガへの関心の高まりが示すように、植物薬やその他の伝統的な癒しの形への関心は高まっている。いわゆる「サイケデリック医薬品」に対する研究や投資は拡大しているが、古典的な科学的方法や生物医学的モデルでは不十分であるか、少なくとも限界があるとの兆候がある。これらの実践がそれぞれの文化的背景の中で行われるとき、起こることの質感は複雑で、精神的な要素や、重要なのはコミュニティを含んでいます。

TCAM の公式認定を推進する。伝統的な治療システムの中でイボガがどのように作用するのかを理解するには、植物そのものだけでなく、その背景を探る必要があります。伝統医療、補完医療、代替医療（TCAM）は、健康格差に対処する上で重要な役割を果たすことができ、健康に対するこれらのアプローチが認識され、適用されるようにするためのアドボカシーが必要である。国際レベルでは、正式に承認されれば、世界的な精神衛生の危機に対するモデルや解決策を提供することができる。ガボンのような国では、TCAM の価値が認められ、保護されることは、この国のニマス（経験豊富な創始者）とンガンガ（精神的実践者）にとって、イボガでの活動を、精神的手法で健康を改善するための様々な既存の薬用資源の一つに過ぎないと考えているだけでなく、この国とその国民に資源をもたらすことにもつながるのです。

3. イボガとイボガインの治療可能性を完全に理解するためには、科学と伝統的な知識の知恵を橋渡しする研究が必要です。

ブウィティ族によると、イボガは世界と人類の起源に関する知識を伝える精霊植物であり、音楽と団結、利他主義、集団要素の重要性に関する教えによって、入門者と霊界や先祖をつなぐとされています。

伝統的な儀式で経験される次元は、他の文脈でも経験されるものであることが、最近 ICEERS が行ったイボガの主観的効果に関する研究によって証明されました。[23] この研究では、イボガインの効果（シロシビンや LSD のような古典的な精神薬による効果よりも長続きする）が、ブウィティの実践者が特定したものと一致する 4 つの段階を経ることが示された。イボガやイボガインとの関係を築こうとした最初の動機にかかわらず、この研究の参加者のほとんどは、精神的・霊的な次元を、自分の経験について最も重要視したと述べています。[24] この洞察は、伝統的な実践者が語るものと平行している。ブウィティのコミュニティでは、精神的な側面は、体験の他のすべての要素から切り離すことができない。

この例は、西洋の科学研究と伝統的な知識という 2 つの世界の架け橋が想像以上に短く、伝統的な知識、グローバルな西洋での実践経験、科学研究へのアプローチとの対話を生み出す機会が多いことを示しています。

ブウィティ族の精神的伝統における意味の生産は、健康と病気を、コミュニティ全体が関与する精神的なバランスとして考え、西洋医学で有効な生物医学的モデルから考えられるように、孤立した個人の性格特性だけに関係しないものであるとしています。このスピリチュアルな視点は、個人と集団の精神的健康の全体的な管理につながり、イボガの精神的・霊的要素や、個人とそのコミュニティへのポジティブな影響の可能性を刻み込む。

伝統的な知識体系、科学、そしてイボガイン医療サブカルチャーの中で生み出された知識の間には、ダイナミックな対話が可能である。これらの見方を織り交ぜることで、分子や植物そのものだけでなく、伝統的な知識や自然が持つ社会的・文化的要素や、個人・コミュニティ・惑星の癒しを支える潜在的な可能性を見出すことができ、より大きな可能性が生まれるでしょう。

巻末資料

巻末資料

1 アフリカ以外の地域でも、サイコ・スピリチュアルな体験や心理療法的な体験を提供したり求めたりする人たちのコミュニティが広がっている。興味深いのは、このカテゴリーの中に、一般的にエンテオジェニックな行為に興味があると思われる人たち、たとえばアヤワスカでまず体験をし、その後イボガやイボガインでの体験を求める、あるいはその逆の人たちがいることがよくあることです。

2 オグデン（2016）https://interactioninstitute.org/network-development-as-leverage-for- 参照 system-change [2020 年 7 月 7 日取得].

3 米国中医鍼灸協会（AACMA）は、2015 年 1 月 11 日に設立されました。カリフォルニア認定鍼灸師協会（CCAA）とユナイテッド・カリフォルニア・プラクティショナーズ・オブ・チャイニーズ・メディスン（UCPCM）が合流して結成されました。AACMA は、中国伝統医学（TCM）の普及と人間の健康保護に取り組んでいます。また、AACMA は、会員の団結と奉仕、会員の権利と利益の擁護、そして患者が安全な医療サービスを受けられるようにすることを目的としています。詳細情報： https://www. aacmaonline.com/ja

4 ギルドオブガイドの詳細については、https://www.guildofguides.nl。

5 生物多様性の利用に関連して、先住民族や地域コミュニティが伝統的知識を利用した場合に補償するメカニズムに関する追加情報。生物多様性条約事務局(2011).*遺伝資源へのアクセスとその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書*。[Re- trieved December 7, 2020] https://www.cbd.int/abs/doc/protocol/nagoya-protocol-en.pdf.も参照してください。シルベストリ（2017）。名古屋議定書。複雑で曖昧かつ論争的なテキストから生じる課題。*Anuario Mexicano de Derecho Internacional*, *17*, 697-716: https://ab- sch.cbd.int/database/VLR/ABSCH-VLR-SCBD-208976

6 カナダで開発されたファースト・ネーションズ原則の OCAP の詳細については、https:// fnigc.ca/ocap-training をご覧ください。

7 ラングロワ（2020）参照。*聖なる互恵関係を探る*。サイケデリック・サイコセラピー・フォーラム https://www.psychedelicpsychotherapy.ca/exploring-sacred-reciprocity-by-andrea-langlois-ma

8 例えば、1984 年、ポール・A・コックス博士は、サモアの伝統的な治療者たちと協力して、薬用植物に関する一連の研究を行いました。その中で、最も重要な発見は、伝統的な治療家が肝炎の治療に用いていた*ホマランサスヌータンの*木に関するものだった。コックスたちは、この木の樹皮からプロストラチンを単離し、抗レトロウイルス薬による治療後の潜伏期のヒト免疫不全ウイルス（HIV）に対して顕著な効果を示した。長年、研究室では合成できなかったこの物質への関心から、米国国立衛生研究所と地元の指導者との間で協定が結ばれた。この協定は、コックスが働いていた小さなコミュニティの学校、診療所、水道の建設、地元の森林保護に 50 万ドル近くを投資するものだった。さらに、プロストラチンが商品化された場合、その利益の 20％をサモアの人々と共有することも合意された。

より詳しい情報はこちら Ona G & Bouso JC (Forthcoming 2021). *サイケデリック研究および治療におけるホールナチュラルアル製品の使用に向けて。相乗効果 マルチターゲットプロファイル、そしてその先へ*。Bentham Publishers.

9 Blessings Of The Forests という団体は、長年この状況を糾弾してきました。2019 年、ガボン政府は公有地から収穫された *T.イボガを*規制するための第一歩を実施しました。

10 IUCN Red List for *Tabernanthe iboga* at: https://www.iucnredlist.org/species/120678584/143718006 [retrieved on July 7 2020].

11 *イボガは*、最近になって他の熱帯諸国でもプランテーションで栽培されるようになったばかりである。野生では、中央アフリカ、特にコンゴ盆地、ガボンの森林にしか生息していない。そのため、*イボガ*といえば、中央アフリカの森に自生しているものを指しますが、その中でも特にガボンを指します。ピグミー族からバンツー族に知識が伝わり、ブウィティ族の伝統が発展した場所である。2019 年 9 月と 10 月のフィールドワークの地にガボンが選ばれたのは、このためです。参照してください。ファウラ＆ラングロワ（2020）。*イボガの未来。中央アフリカからの視点 (Perspectives from Central Africa)*.Community Engagement Initiative Phase 2 Report.ICEERS 発行、https://www.iceers.org/iboga-com- munity-engagement-initiative-phase-2-report にて。

12 Blessings Of The Forest と Conservation Justice は、違法な密猟ネットワークと、儲かり成長するイボガの違法輸出市場との関連性を追跡してきました。彼らは、少なくともいくつかの文書化されたケースにおいて、実際にはガボンの森林から違法に入手されたカメルーンブランドのイボガを販売するウェブサイトが存在することを示す証拠を集めています。

13 *Iboga Community Engagement Initiative* Phase 1 および Phase 2 報告書、re-spectively を参照。ファウラ＆ラングロワ（2019）。*Visions of the International Community on Iboga/ine*. ICEERS. https://www.iceers.org/iboga-ine-community-engagement-initia- tive-phase-1-report; and Faura & Langlois (2020).*The Future of Iboga:Perspectives from Central Africa*, ICEERS. https://www.iceers.org/iboga-community-engage- ment-initiative-phase-2-report.

14 参照： https://www.blessingsoftheforest.org/

15 ファウラ＆ラングロワ（2019）. *イボガ/イネに関する国際共同体のビジョン*.ICEERS. https://www.iceers.org/iboga-ine-community-engagement-initiative-phase-1-report

16 Faura & Langlois (2019) の 48-49 ページを参照。*Visions of the International Community on Iboga/ine*, ICEERS. https://www.iceers.org/iboga-ine-community-engagement-initia- tive-phase-1-report

17 詳細については、以下をご参照ください。Ona, G., Dos Santos, R. G., Hallak, J. E., & Bouso, J. C. (2020).サイケデリック研究におけるポリファーマコロジーまたは「薬理学的乱交」。What Are We Missing?*ACS ケミカル・ニューロサイエンス*.

18 ファウラ＆ラングロワ（2019）. *イボガ/イネに関する国際共同体のビジョン*.ICEERS. https://www.iceers.org/iboga-ine-community-engagement-initiative-phase-1-report

19 イボガインの安全性／副作用に関するレビューは、以下をご参照ください。Alper, Stajić, & Gill (2012).イボガインの摂取と一時的に関連した死亡事故。*Journal of foren- sic sciences*, *57(2)*, 398-412.Koenig & Hilber (2015) も参照。抗中毒薬イボガインと心臓：微妙な関係。*Molecules*, *20*(2), 2208-2228.臨床現場での副作用に関する追加情報は、以下をご参照ください。"Clinical Guidelines for Ibo-gaine-Assisted Detoxification", the Global Ibogaine Therapy Alliance (GITA, 2016).

20 Alper, Stajic & Gill (2012).イボガインの摂取に一時的に関連した死亡事故。 *J Forensic Sci*, *Vol.57*, No.2。

21 詳しくは、こちらをご覧ください。ファウラ、ラングロワ、ブーゾー（2020）。*分子の販売を超えた先祖伝来の知識の拡張。サイケデリックな商業化の文脈におけるイボガとイボガイン(Iboga and Ibogaine in the Context of Psychedelic Commercialization)*.MAPS Bulletin Spring 2020:Vol.30, No 1. https://maps. org/news/bulletin/articles/439-bulletin-spring-2020/8133-expanding-ancestral- knowledge-beyond-the-sale-of-molecules-iboga-and-ibogaine-in-the-context-of-.

サイケデリック商業化

22 より詳しい情報はこちら Bouso & Sánchez-Avilés (2020).精神作用のある植物を含む伝統的な癒しの実践とグローバルメンタルヘルスアジェンダ。科学への権利」の枠組みにおける機会、落とし穴、および課題。*ヘルス＆ヒューマンライツジャーナル* https://www.iceers.org/the-role-of-traditional-medicines-in-global-mental- 健康

23 詳~~しく~~は、こちらをご覧ください。コヘック、オーレン、ホーンビー、アルカサル＝コルコール＆ブーソ、JC. (2020).イボガイン・エクスペリエンス。イボガインの急性主観的効果に関する質的研究.*意識の人類学』31 巻 1 号*、91-119 頁、ISSN 1053-4202. https://www.iceers.org/the-subjective-effects-of-ibogaine-and-healthy-living

24 当社のエンゲージメント活動のフェーズ 1 では、回答者の 80％以上が、イボガやイボガインを問題ある薬物使用の治療のために使用することが当初の目的であっても、この体験の一部を高く評価すると答えました。

ICEE

INTERNATIONAL CENTER FOR
ETHNOBOTANICAL EDUCATION
RESEARCH & SERVICES

www.iceers.org